

中学校国語

A問題 平均正答率：72.5%（全国：75.6%） 平均無解答率：2.5%（全国：2.0%）

B問題 平均正答率：62.1%（全国：66.5%） 平均無解答率：5.7%（全国：4.4%）

結果チャート

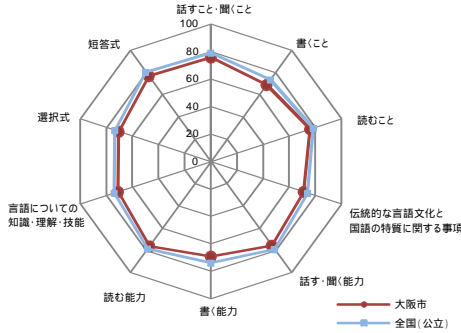
領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

A問題では、「書くこと」「書く能力」の項目で低い値を示しています。

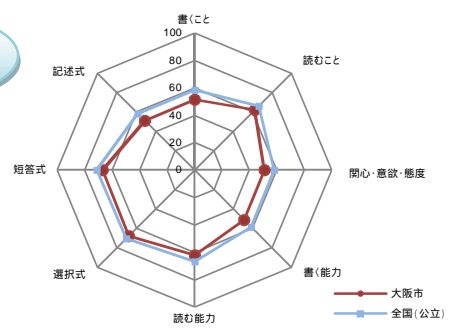
平均正答率及び平均無解答率については、P.2の表を参照のこと。

B問題では、「書くこと」「記述式」等の項目で低い値を示しています。

国語A



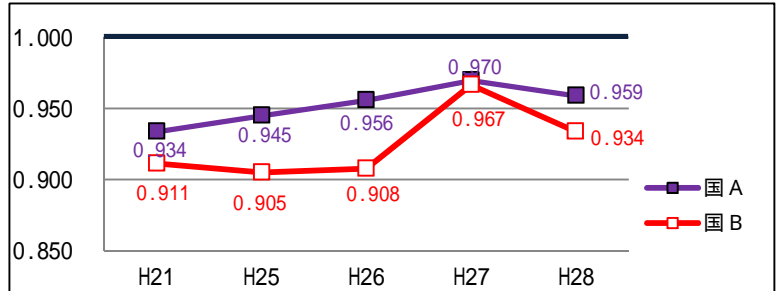
国語B



対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成21, 25, 26, 27, 28年度を取り上げています。

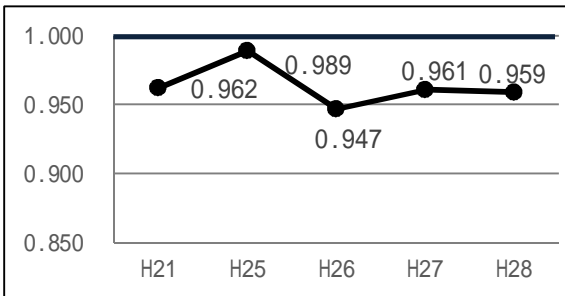
グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語A・国語Bの大阪市の割合を表したものです。



主として知識に関する「話すこと・聞くこと」にがんばりが見られます

国語A「話すこと・聞くこと」領域の問題にがんばりが見られます。

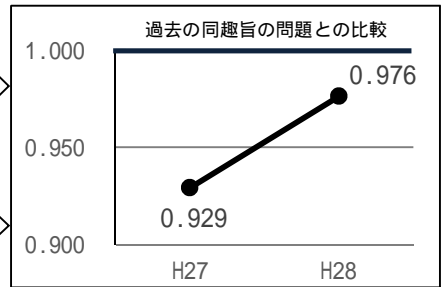
国語A「話すこと・聞くこと」領域の問題の対全国比



相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かす問題の対全国比

【H27】「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す問題（A[1]二）

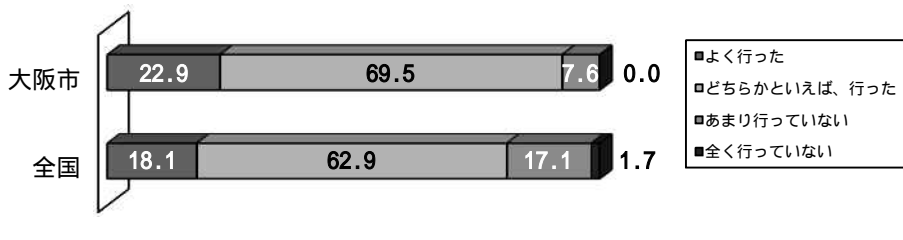
【H28】電話を受けた相手のことを考えた言葉を書く問題（A[5]一）



国語の指導として、補充的な学習を行うことに改善が見られます。

学

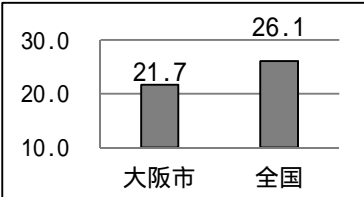
国語の指導として補充的な学習の指導を行った（肯定的回答 大阪市:92.4% 全国:81.0%）



肯定的な回答が全国を上回っています

日常的な漢字を書くことに努力が必要です

文脈に即して漢字を書く問題の正答率

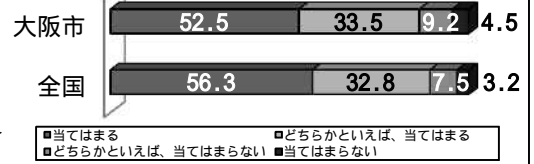


漢字を書く(今までにないドクソウ的な考えだ)問題(A[9]-2)

肯定的な回答が全国を下回っています

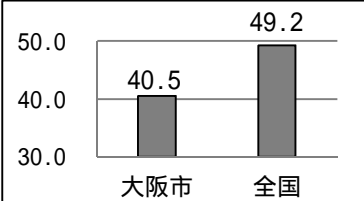
生

国語の勉強は大切だと思っている
(肯定的回答 大阪市:86.0% 全国:89.1%)



課題の解決に向け、見通しをもって情報を収集することに努力が必要です

課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える問題の正答率

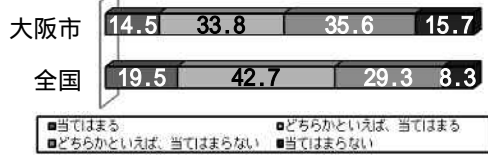


宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く問題(B[2]三)

肯定的な回答が全国を下回っています

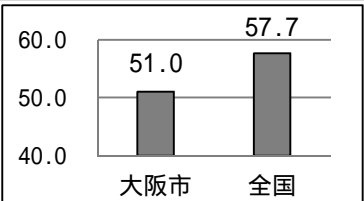
生

目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている
(肯定的回答 大阪市:48.3% 全国:62.2%)



自分の考えや気持ちと根拠との関係について吟味することに努力が必要です

本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の正答率

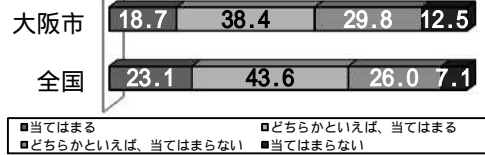


図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったかを書く問題(B[3]三)

肯定的な回答が全国を下回っています

生

自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている
(肯定的回答 大阪市:57.1% 全国:66.7%)



学校で

- ・ 複数の資料から適切な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く力を育みます。
- ・ 言語活動の充実を図り、自分の考えと根拠を吟味する力を育みます。
- ・ 習熟度別少人数授業を通して、学習への意欲を高めるとともに、一人一人の習熟に合った指導を進めます。
- ・ 「学習教材データの配信」などを活用し、漢字や語句の意味など、基礎的・基本的な事項の定着や知識を活用する力を育みます。

家庭で

- ・ 日常生活における様々な言葉において、漢字を適切に使って書くようにしましょう。
- ・ メッセージなどを書く時に、紙面に対する文字の大きさをバランスよく書くようにしましょう。
- ・ 地域の図書館、公共施設、あるいはコンピュータや情報通信ネットワークなどそれぞれの特徴を生かした情報を収集する機会をつくりましょう。

効果があった取組例

- ・ 教員が話す時は聞く姿勢を取らせるようにし、板書を写す時は書く時間を与えるようにするなど、学習活動にメリハリをつけています。
- ・ 行事後に体験報告や絵日記作文などを書き、発表する活動を取り入れています。
- ・ 漢字の定着を図るために、授業の始めに漢字テストをし、定着するまで再テストを行っています。
- ・ 習熟度別少人数授業において、個に応じた指導の充実を図っています。
- ・ 子どもの発表をすべて受け止めるよう心がけ、自分の意見を自信をもって発表できるように取り組んでいます。

大阪市の取組

「主体的・協働的な学びの推進」(P.38)「習熟度別少人数授業の実施」(P.38)
「学習教材データの配信」(P.39)「学校図書館活性化事業の実施・学校図書館活用推進事業の実施」(P.41)

課題と指導のポイント

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題
全国と比べて平均正答率の差が大きい問題
大阪市として継続して課題がみられる問題

【国語A】(主として「知識」に関する問題)

課題

文脈に即して漢字を正しく書くこと

- 9一 設問の概要 漢字を書く。1 大学で歴史のケンキュウをする。〔正答率 大阪市:73.4% 全国:83.5%〕
漢字を書く。2 今までにないドクソウ的な考えだ。〔正答率 大阪市:21.7% 全国:26.1%〕

学習指導要領における領域

〔第2学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント

日常的に漢字を書く学習をする



漢字を書くことの指導においては、既習の漢字を日常的に使用するように指導するとともに、漢和辞典や国語辞典などを活用してそれぞれの漢字の部首や意味などについても確認させることが大切である。

例えば、同音の漢字や形が似ている漢字などの間違いやすい漢字を取り上げ、文脈に即して書くなどの学習活動が有効である。また、各教科等における学習の中で漢字を適切に使用するように指導することも重要である。



漢字の読み書きの習得には繰り返しの学習が必要ですが、それだけでは十分ではないですね。子どもが漢字に興味をもつような指導を工夫しましょう。

具体的な指導事例

各教科の教科書の中から漢字で表されている語句を選び、その意味や使われ方をまとめた『学習語句集』を作成する。

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」文部科学省 平成25年3月

課題

文字の形や大きさ、配列に注意して書くこと

- 9六 設問の概要 題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する。
〔正答率 大阪市:33.4% 全国:36.4%〕

学習指導要領における領域

〔第1学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント

字形を整え、文字の大きさ、配列などに注意して書くことができるようにする



書写の学習では、書いたものについて子どもが互いに評価し合う場面を設けることが考えられる。

例えば、本設問のような特徴的な事例を示し、全体で観点を確認した後、個人やグループで書いたものを検討するなどの学習活動が有効である。

また、社会生活の中で見られる文字の大きさや配列の工夫などについて適宜取り上げ、目的や必要に応じて効果的に書くことを意識させることが大切である。

「想」の字が「相」と「心」に見えないように、字形を整えて書き直しているわ。



下の「学校」の字が詰まっていたから、用紙の大きさと文字数に注意して書き直しているね。



ノートや掲示物などを書く際に、書写で学んだことを活用するように指導しましょう。



題名の下書き「A」を、「B」のように書き直しました。どのように書き直しましたか。

【国語B】(主として「活用」に関する問題)

課題

課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること

- 2三 設問の概要 宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く。 [正答率 大阪市:40.5% 全国:49.2%]

学習指導要領における領域 [第1学年] B 書くこと C 読むこと

指導のポイント

課題の解決に向け、見通しをもって情報収集ができるようにする



自ら情報を収集しながら課題の解決を図る学習の際には、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などを活用する必要がある。その際、課題の解決までの見通しをもち、状況に応じて適切な情報収集の方法を選択するように指導することが大切である。

学校図書館の利用に当たっては、小学校での学習内容を踏まえ、日本十進分類法や本の配置についての知識を生かしたり、コンピュータを使って検索したりするなど複数の情報収集の方法を考へるように指導することが重要である。



インターネットは、子どもたちにとって身近な情報源で、その情報をすべて真実として受け取ってしまいます。複数の情報を収集して、信頼のおける情報を選択するように指導しましょう。

具体的な指導事例 情報を比較し自分の考えをまとめる

集めた情報から、自分の考えをまとめるための情報を選ぶ。

同じテーマの情報について、情報源の違いをとらえる。

- ・新聞記事にはどのような特徴があるかを考える。
- ・インターネットの情報にはどのような特徴があるかを考える。
- ・それぞれの情報を使って自分の考えをまとめる場合に、どのような点に注意すべきかを考える。

自分の考えをまとめるために必要な情報を絞り込む。

- ・自分の課題にふさわしい情報を決め、論の構成を考える。

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」
文部科学省 平成25年3月

課題

本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと

- 3三 設問の概要 図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く。 [正答率 大阪市:51.0% 全国:57.7%]

学習指導要領における領域 [第1学年] B 書くこと C 読むこと

指導のポイント

自分の考えや気持ちと根拠との関係について吟味できるようにする



文学的な文章を読む際に、必要に応じて語注や脚注、百科事典や図鑑などの資料を参考にし、そこから得た情報を補足することによって、場面の様子などについてより想像を広げたり理解を深めたりすることができる場合がある。

また、資料から得た情報を踏まえることで、より想像が広がったり理解が深まったりした内容について、根拠を明確にして説明し合うように指導することも重要である。その際、根拠として示した内容が自分の考えや気持ちを支えるものになっているかどうかについて吟味するように指導する必要がある。

具体的な指導事例

文章を読んで、感じたことや考えたことを書いてみよう。



作者のものの見方や考え方に共感することがあるわ。



疑問点や批判することもあるな。



新たな発見もあるよ。



いろんな視点から考えられるようになるね。



なぜそのように感じたのか、文章のどこからそのように考えたかについて、本文を引用するなどして自分の考えが伝わるようにしましょう。

授業の改善・充実に
図る際の参考事例



「平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例」P.3~8
国立教育政策研究所ウェブサイト <http://www.nier.go.jp/jugyourei/h28/data/16m.pdf>